

平成 22 年 11 月 8 日

電通と平凡社、日本らしい感性を掘り起こす共同プロジェクト
「うつくしいくらしかた研究所™」を発足
～活動第1弾として、iPad/iPhone 向け“電子巻物” 暦アプリを開発～

株式会社電通は、株式会社平凡社と共同で、古くから日本の暮らしの中で実践されてきたことや存在してきた考え方に改めて注目し、現代にも受容される新しく日本らしい「くらしかた」を広めることを目的に、コンテンツ開発から事業コンサルティングまでを手掛けるプロジェクト「うつくしいくらしかた研究所™」を、11月7日に発足させました。

日本経済が成熟し、「質と絆」を重視した“ソーシャル消費”が活発になってきている中、“昔きもの”の特集雑誌が売れるなど日本文化への関心が高まっています。

そこで電通は、日本人が古くから日々の暮らしの中で実践してきたことや、暮らしの中にあつた考え方に注目し、「自然に寄り添う」「不便や手間を厭わず、プロセスや姿勢をたいせつにする」「個人の知恵や技を高める」という暮らし方を「うつくしいくらしかた™」と定義し、現代にも受容される「くらしかた」として提案するプロジェクト「うつくしいくらしかた研究所」を平凡社と共同で立ち上げました。電通が持つクリエイティブ力やコンサルティング力と、平凡社が持つ百科事典や図鑑、「別冊太陽」などのコンテンツや編集ノウハウを活かし、「うつくしいくらしかた」を提案するコンテンツの開発から、事業コンサルティングまでを手掛け、日本の知恵を改めて日本人に伝え、グローバルにも広げていくことを目指します。

また、研究所の活動内容へのディレクションやアドバイスを任ずる理事に、日本人が実践してきた暮らし方やその思想を、時代に合わせた形で伝承している有識者、小澤實氏（俳人）、山口信博氏（折形デザイン研究所）、吉岡幸雄氏（染織史家）の各氏（五十音順）が就任し、今後、他の有識者の方々にも参加いただく予定です。さらに、研究所のエグゼクティブ・プロデューサーを、近衛忠大氏（日本文化総合プロデューサー）が務めます。

「うつくしいくらしかた」を提案する活動の第1弾として、iPad/iPhone 向けに、暦アプリケーション「くらしのこよみ」を開発し、11月7日より、無料でサービスを開始いたしました。このアプリは、日本で古くから用いられてきた季節の区切り方である「二十四節気」「七十二候」というコンテンツを、iPad や iPhone という新しいメディアで展開する、古くて新しいカレンダーです。平凡社が持つ貴重な写真や図像がデジタルコンテンツとしてよみがえります。

この暦アプリケーションをプラットフォームに、今後、“着物のきかた”や“障子の貼りかた”“贈りものの包みかた”などをテーマに、「うつくしいくらしかた提案アプリ」を続々とリリースしていく予定です。また、企業向けに「うつくしいくらしかた研究所」のコンテンツやノウハウ・情報を活用したコンサルティングを行なっていきます。その他、SNSなどを活用し、暮らし方のテーマごとにコミュニティをつくり、生活者とともに「うつくしいくらしかた」の知恵を形成していくことや、開発したコンテンツのグローバル展開も考えていきます。

◆「くらしのこよみ for iPad」／「くらしのこよみ for iPhone」 概要

～七十二候に合わせ5日毎に更新される“電子巻物” 暦アプリ「くらしのこよみ」～

- 日本で古くから用いられてきた季節の区切り方「二十四節気」と「七十二候」に沿って更新される、暦アプリケーションです。
- 自然の変化を表わす七十二候の言葉をベースに、その季節を堪能できる写真、図像、俳句や読みものなどのコンテンツが、巻物仕立てで展開されます。
- 更新は、七十二候にあわせて、およそ5日毎で、更新日を過ぎると、その前の侯の巻物は見られなくなります。
- iPad および iPhone ユーザーは、二十四節気「立冬」の始まりである11月7日より、App Store（アップストア）にて、無料でダウンロードすることが可能です。

(iPad アプリ「くらしのこよみ」スクリーンショット画像イメージ)



(「くらしのこよみ」 巻物仕立てコンテンツの全体像イメージ)



【リリースに関するお問合せ】

株式会社電通 コーポレート・コミュニケーション局広報部 市川、林田
 電話 03-6216-8041
 ソーシャル・ソリューション局 田中宏和、田中里佳
 電話 03-6216-8823

別紙

<理事各氏プロフィール> ※五十音順

・小澤實氏

1956（昭和 31）年、長野県生れ。1977（昭和 52）年、信州大学在学中、信大連句会に参加、信大俳句会結成、「鷹」入会。15年間、編集長を勤めた後、1999（平成 12）年「澤」創刊、主宰。1998（平成 10）年、句集『立像』（角川書店）で第 21 回俳人協会新人賞。2006（平成 18）年、句集『瞬間』（角川書店）で第 57 回讀賣文学賞詩歌俳句賞。2008（平成 20）年、『俳句のはじまる場所』（角川選書）で第 22 回俳人協会評論賞。讀賣新聞、東京新聞俳壇選者。俳人協会理事。

・山口信博氏

折形デザイン研究所主宰。有限会社山口デザイン事務所代表。1948 年、千葉県生まれ。桑沢デザイン研究所中退。コスモ・PRを経てフリーに。住まいの図書館、住まい学大系全 100 冊のアートディレクションや、鹿島出版会の建築雑誌月刊「SD」のアートディレクション等を経て、現在に至る。著書に『白の消息』（ラトルズ）、共著に『折る、贈る』（ラトルズ）、『半紙で折る折形歳時記』（平凡社）、『折形デザイン研究所の新・包結図説』（ラトルズ）、『和のこころを伝える 贈りものの包み方』（誠文堂新光社）。

・吉岡幸雄氏

1946 年、京都市の江戸時代から京都で四代続く染屋に生まれる。早稲田大学第一文学部卒業後、1973 年、美術図書出版「紫紅社」を設立。1988 年、生家「染司よしおか」五代目当主を嗣ぐ。各種の植物から色を汲みだす「植物染」を行い、日本古来の色の伝統と技を守る。東大寺、法隆寺、薬師寺、伊勢神宮など古い社寺の伝統行事の染色に携わり、伎楽衣装、造り花、幡などの復元制作を行う。著書に『日本の色辞典』（紫紅社）、『日本の色を染める』（岩波新書）、『和みの百色』（PHP 研究所）など多数。2010 年、第 58 回菊池寛賞受賞。

<エグゼクティブ・プロデューサー プロフィール>

・近衛忠大氏

1970 年 東京生まれ。武蔵野美術大学映像学科卒業後、1994 年 NHK 入局。退職後フリーランスで映像制作を続ける一方、語学を活かして外資系テレビ局の日本進出、インターネットベンチャーなど様々なプロジェクトに参加。2000 年からは SUN プロデュース株式会社にてファッションブランドなどのイベント制作にも携わる。2006 年、「日本を世界に発信する」事にクリエイティブな形で携わろうと、GT パートナース株式会社として独立し、映像・イベント制作をはじめ、様々な分野でプロデュースを行う。一方、宮中歌会始で講師を務めるなど伝統文化にも関わる。著書に『近衛家の太平洋戦争』（日本放送出版協会）。

<うつくしいくらしかた ログ>

